
「うそ」はどこから来たか？

— 語源は中国語の「胡説」か —

山口 建 治

中世のこの列島に薬を売り歩いた唐人の集団がいたという日本史研究者の指摘を承けて、小田原の透頂香を日本に伝えたといわれている外郎（ういろ）のことを調べて論文にしたことがある。そのとき、薬を売り歩いた唐人は自分たちを「薬師」（やし）と自称したのではないかと思いついた。「やし」は今日「香具師」と書くのが普通だが、本来は中国語の「薬師」の発音をそのままうつしとった言葉であろうと考えたわけである。「やくし」が訛ったり、つまったりして「やし」になったと説明する人がいるが、そうではなく最初から「やし」という音で日本語のなかに入ってきたのである。

その後もいろいろ調べていると面白いことに気づいた。それは「やし」同様、語源不明とされている日本語のなかに、当時の中国語（とくにその俗語）が、そのまま日本語の世界に紛れ込んで、その後、唐音（中国語）だという認識が薄れて、適当な漢字が当てられてしまったために素性がわからなくなった言葉があることに気づいた。そういう言葉が「やし」以外にもまだまだいくつもありそうなのだが、最大級のものが「うそ」という

言葉である。

まるでうそのような話なのだが、「うそ」の語源は中国語の「胡説」だと考えられる。小学館の『日本国語大辞典』の「うそ」の項には、その語源として十一もの説が列挙されているが、私にはどれも苦し紛れの牽強附会に見える。ここでそれらの説をいちいちとりあげ批判する余裕はないが、中国語の「胡説」が語源であるとさえいえば、こじつけの説明はしないで済むのである。「胡説」は「根拠や道理もなくみだりにいう」（『漢語大詞典』）ことであり、その音も中国の南方方言で発音すれば、「うそ」ときわめて近い音になるはずである（ちなみに、今日の杭州音では〔ɦusuə2〕となる）。今日では「うそ」は「嘘」という字を当てて書くのが普通だが、漢字の「嘘」の字は「息を吐く」という意味であり、一般の漢和辞典にも書いてあるように、日本人がその字形からかってに「うそ」の意味を持たせて使うようになっただけなのだ。このように「うそ」の語源を発見したぞと、ひとり悦に入っているのだが、これがまっかな「うそ」だったりして……。